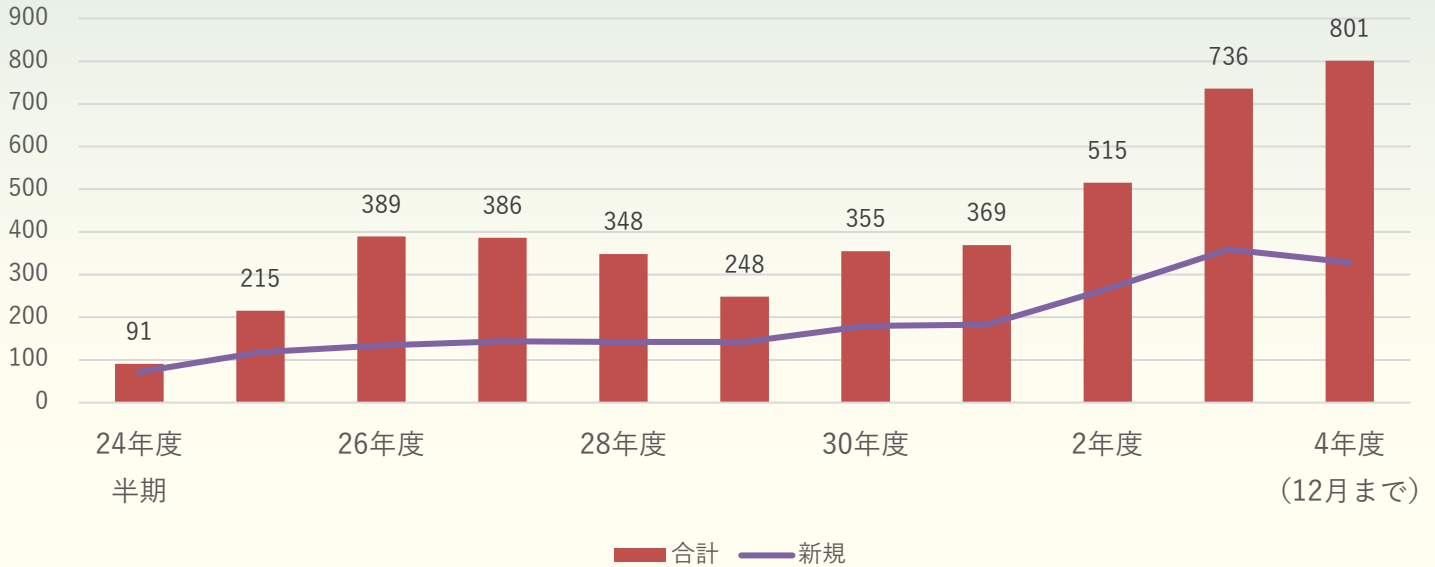




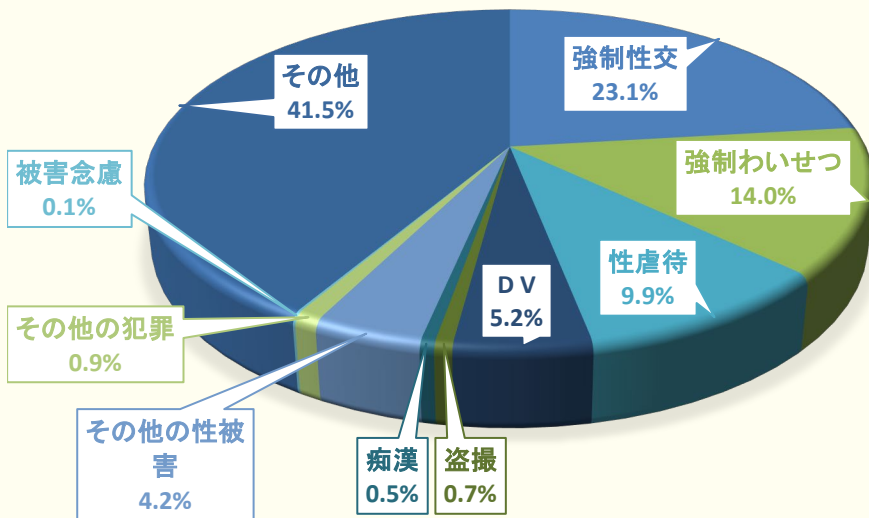
# ●SACRACH相談実績 2012年10月1日～2022年12月31日

## 相談件数の推移

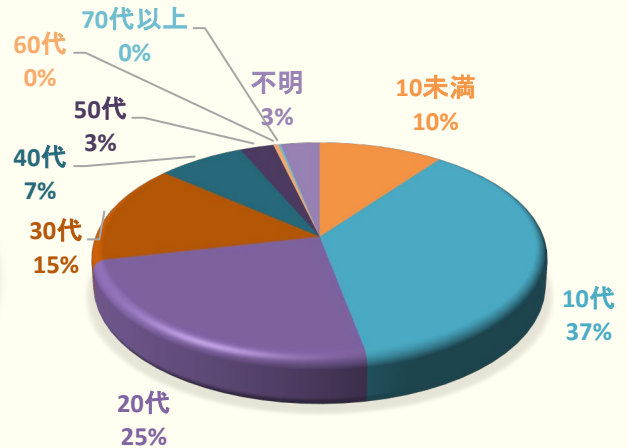


累計4,453 新規 2,069

## 相談内容



## 被害時年齢



- 2019年11月から、それまで電話だけだった相談方法にメールを加え、午後だけだった相談時間も午前10時からに延長しました。
- 2020年11月には、SNS (LINE) 相談も受付を始めました。
- 2021年11月から夜間・休日に内閣府のコールセンターに転送されるようになり、実質的にご相談が24時間365日受け付けられるようになりました。
- 2022年11月からは、夜間・休日であっても、緊急避妊薬の処方などが必要な事案に対応できるよう、オンコール体制を整えました。  
併せて、ご相談の電話もフリーダイヤルとなり、料金を気にせずにご相談いただけるようになりました。
- SACRACHを相談しやすいものに変えていきながら、常にアップデートを図ってきた結果、開設以来4000件以上、2000人以上の方に利用していただいています。もちろん、被害がなくなるのが望ましいことなのですが、残念ながら性暴力が起きている以上は、必要な方に私たちの支援を届けたいと考えています。

# 2022年度 性暴力被害者診療支援看護職（SANET）養成講座

SANET（サネット）：Sexual Assault Nurse Evidence Taker

開催日：2022年7月9・10日 9月10・11日 11月19・20日（全6日間）

開催場所：札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目）



コロナ禍の中、今年度も対面講義とオンライン講義の併用で実施しました。受講生の学びの一端を下記にご紹介いたします。

受講生の皆様には、ご自身の専門分野の自己研鑽と共に、今後は性暴力被害者のない社会を目指すべく、本講座を基盤とした性教育のリーダーとしてのご活躍をも期待しております。

なお、本養成講座は、日本助産評価機構の認証によるアドバンス助産師選択研修に認定されています。

## 受講生の学び

昨今のコロナ禍では特に、性暴力被害の「命に係わる」深刻さが増し、未成年の被害の増加や、時代の変化に伴うジェンダーの捉え方、男性被害者の存在や性教育の重要性など、被害者支援の新たな視点を確認する機会となった。特に、性被害当事者の話は、相談者の心理や行動の理解に必要な不可欠な内容で、今後の支援に極めて有意義であった。

ロールプレイからの学びでは、「司法面接」における面接者・被面接者の立場を体験し、その困難さと心理的な負担を実感できた。また、事例に基づく電話対応では、支援者が相談者から対応への感想を聴く中で、自らの対応の傾向を気づくことにつながった。さらに、診療現場における支援では、事例設定による問診・全身観察・言葉かけの方法や証拠採取法（モデル使用）の学習は、実践場面での活用に有用であった。これらロールプレイを介する学びは、相談対応に必須の内容であった。

性教育に関しては「家庭での性教育が、被害者・加害者にならないための教育の基盤となる」ことを再認識する機会となった。

## 認定NPO法人ゆいネット北海道10周年記念講演会開催報告

「SACRACHの10年とこれからの性教育」をテーマに、2022年10月9日、村瀬幸浩さん、太田啓子さんを講師に迎えて記念講演会を開催した。

当日会場には、教育関係者、医療関係者、司法関係者、被害者支援の担当者を含む100名の方の参加を得、性暴力被害予防、性教育への関心の高さが現れた有意義な会となった。



理事長挨拶



村瀬幸浩さん

村瀬幸浩講師は、これまでの性教育は、不幸にならないための教育と言って良いのではないかと、私たちが目指すのは「幸せに生きるための学び」でありたいと述べ、いくつかの興味深く、そして学ぶべき重要な視点を挙げた。

1947年に当時の文部省から「純潔教育の実施について」とする通達が出され、道徳教育としての性教育が行われてきた。女性を産む性の枠に押し込め、男子が女子の身体を学ぶ機会もない所謂別生の性教育であったが、ともに学ぶ共生の性教育でなければならない。性の快楽、人間らしく、共生の性の主体として生きる学びが必要であり、そこに自己決定権行使のための自己決定力を学ぶ必要があるなどと語った。

太田啓子講師は、二人の息子さんの子育てをしながら、ジェンダー教育としての性教育の必要性について日々感じていること、実践していることを話した。子どもたちの他愛のない遊び、いたずらの中にジェンダーとしての性教育の重要性が潜んでいる。例えば「カンチョー」「スカートめくり」。「カンチョー」は、当にプライベートゾーンへの侵害であり、「スカートめくり」は好意を持っている女の子に男の子がすると、安易に否定できない雰囲気醸し出す。そこに嫌なものは嫌と言えない環境を作ってしまう。何気ない行動の中に行わなければならない性教育があることを見つめなくてはいけない。

太田氏の講演には、目から鱗の言葉が多くあった。



太田啓子さん

このあと、講師2名、ゆいネット北海道理事長で弁護士の須田布美子、同副理事長で産婦人科医の長島香の4名でトークショーを行った。

### ① 性教育の必要性について

性教育の欠如により、快楽は男子のもの、男子から与えられるものと考えている、AV(まがい)が性、愛の表現であるとすり込まれている、男子は女子の身体、月経など知る機会がない、女子は生殖など女の性は学ぶが男の性は知らない。互いに慈しみ合い、性の対等な関係を作り上げることが出来ない状況にある。

### ② これまでの性教育について

現場の教師が性教育を行うことに対して、親などからバッシングを受けたり、校長から無視されることがある。

2003年に養護学校の教員が、都議から不適切な性教育を行ったとして非難された案件で、関連の裁判では教員が勝訴したが、父母やマスコミなどから批判的な意見が多くあった影響もあり、その後の性教育は抑制的となった。さらに2018年、再び都議から学校の性教育に対し非難されたが、マスコミ、世間の反応は、都議の非難に賛同するものではなかった。しかし、『性行為を取り扱わない』とする文科省の指導要領は変わっておらず、学校の取り組み方はバラバラである。

### ③ これからの性教育について

ユネスコのセクシュアリティ教育ガイダンスは、5才から18才まで、成長の段階に応じて、主体的に責任をもって生きていくために、包括的性教育(生殖・安全・人間関係・ジェンダーなどを含む)の学習目標を設定している。

そのような教育を推進する議員を増やさなければならない、指導要領を変えるべき、性については科学と事実を教えるべきである、科学と関係性が大事である、などの意見が出され、議論は盛り上がった。

以上、皆の幸せに繋がる性教育とは何かにつき、一人ひとりが自分事として考える気づきとなるトークショーであった。

時間が足りず会場との意見交換が出来なかったが、参加者から寄せられたアンケートには、勉強になった、性教育は皆が幸せに生きていくために必要だなど、多くの方の熱い思いが綴られ、さくらことしても、取り組むことの意義を改めて考えさせられた。



トークショー終了後の副理事長挨拶

## 【さくらこ提携病院・協力病院】

○提携病院	
医療機関名	
医療法人明日葉会 札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル	
○協力病院	
地域	医療機関名
空知	砂川市立病院
石狩	市立札幌病院 NTT東日本札幌病院 医療法人にしかわウイメンズヘルスクリニック のだレディースクリニック 医療法人社団みぶな会ひなたクリニック 医療法人社団ゆほな会はやしたくみ女性クリニック 響きの杜クリニック たばた産婦人科クリニック 医療法人社団モアナエムズレディースクリニック 医療法人育愛会札幌東豊病院 札幌白石産科婦人科病院 勤医協札幌病院 医療法人徳洲会札幌徳洲会病院 KKR札幌医療センター 医療法人社団豊生会伏古レディースクリニック 医療法人社団EVEウイメンズクリニック 医療法人社団青葉産婦人科クリニック 医療法人福住産科婦人科クリニック 医療法人社団いちご会美加レディースクリニック 医療法人礼風会五輪橋マタニティクリニック 医療法人社団ともこレディースクリニック 医療法人はだ産婦人科クリニック 医療法人育愛会愛産婦人科 医療法人社団手稲あけぼのレディースクリニック 江別市立病院 医療法人社団プリモウイメンズクリニック 市立千歳市民病院 マミーズクリニックちとせ 医療法人社団産婦人科・小児科クリニックリブ みよしレディースクリニック

後志 胆振	医療法人社団新開レディースクリニック 王子総合病院 苫小牧市立病院 医療法人緑風会石田内科胃腸科
渡島	函館中央病院 秋山記念病院 市立函館病院 医療法人社団産科婦人科白鳥クリニック 医療法人社団陵仁会えんどう桔梗マタニティクリニック 湯の川女性クリニック 木古内町国民健康保険病院 八雲総合病院
檜山 上川	北海道立江差病院 医療法人社団健和会和田産婦人科医院 医療法人社団弘和会森産科婦人科病院 名寄市立総合病院 社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院
宗谷	市立稚内病院 利尻島国保中央病院
オ ホーツ ク	やまかわウイメンズクリニック JA北海道厚生連 網走厚生病院 金川医院
十勝	医療法人社団慶愛 慶愛病院 社会福祉法人北海道社会事業協会帯広病院
釧路	くしろレディースクリニック 医療法人社団足立産婦人科クリニック
根室	市立根室病院 町立別海病院

2022年9月末 現在

提携病院、協力病院となつていただきました皆さまには、心より感謝申し上げます。引き続き協力病院は募集しておりますので、ご関心のある方は是非ゆいネット北海道までご連絡ください。また、併せて、協力弁護士も募集しております。ご協力いただける弁護士の方は、理事長の須田までご連絡いただきますようお願い致します。

## ゆいネット北海道の活動（2022年1月～2022年12月）

2022年	
1月	第46回さくらこ運営委員会 北海道女性医師の会講演会共催
2月	地域支援員研修 相談員対象スキルアップ研修（基礎編）
3月	第47回さくらこ運営委員会 相談員対象スキルアップ研修（ロールプレイング編）
4月	ゆいネット理事会
5月	第10回通常総会 第48回さくらこ運営委員会 警察学校講師派遣（性犯罪捜査専科・犯罪被害者専科） ゆいネット理事会
6月	性暴力救援センター全国連絡会代表者会議
7月	室蘭薬剤師会講師派遣「性暴力被害者の実情と緊急避妊薬OTC化への動向」 第49回さくらこ運営委員会 性暴力被害者診療支援看護職（SANET）養成講座1回目（札幌エルプラザ） 第50回さくらこ運営委員会
8月	SNS相談 性暴力救援センター全国研修会（アダルトビデオ新法）
9月	第51回さくらこ運営委員会 性暴力被害者診療支援看護職（SANET）養成講座2回目（札幌エルプラザ）
10月	第52回さくらこ運営委員会 第53回さくらこ運営委員会 ゆいネット理事会 ゆいネット北海道10周年記念講演会開催（札幌医科大学記念ホール）
11月	性暴力被害者診療支援看護職（SANET）養成講座3回目（札幌エルプラザ） ゆいネット理事会
12月	第54回さくらこ運営委員会 ゆいネット理事会 第55回さくらこ運営委員会 SNS相談
今後の予定	講師派遣予定 地域支援員との懇談

SACRACHの相談電話がフリーダイヤルになりました！

全国共通ダイヤル #8891（早くワンストップ）  
：携帯電話・アナログ固定電話からの通話料が無料

0120-8891-77  
：NTTひかり電話からの通話料が無料

## ご寄付について

当法人は、北海道と札幌市から委託を受けて、性暴力被害者支援センター北海道（SACRACH、さくらこ）を運営しておりますが、委託費の使途や項目ごとの金額には限定があり、残念ながら運営にかかる費用をすべて負担していただけているわけではありません。

また、当法人が開催している性暴力被害者診療支援看護職（SANET）養成講座は、ご参加いただく皆さまからの参加費だけでは講師料や会場費等の費用をすべてまかなえていない状況です。これらの不足につきましては、皆さまからいただくご寄付によって補填させていただきながら、なんとか運営を維持しているという状況です。

つきましては、引き続き皆さまからのご支援、ご寄付を賜りたく、切にお願い申し上げます。

お振込先	ゆうちょ	02700-4-98598	ゆいネット北海道
	ゆうちょ銀行 二七九支店	当座	0098598 ゆいネット北海道
	北洋銀行	北七条支店	普通 3993540 トクヒ)ユイネットホッカイドウ

なお、当法人はこれまで「認定NPO」であったため、寄付金が税額控除の対象となっていました。この認定期間は2022年10月19日までだったのですが、認定後に手続上の不備があったことがわかり、同月20日以降の更新を断念致しました。そのため、同月20日以降のご寄付につきましては、税額控除の対象とはなりません。あしからずご了承ください。



SACRACH



ゆいネット北海道

### NPO 法人ゆいネット北海道

事務局：TEL 011-768-8600

FAX 011-788-5750

HP: <http://yuinet-hokkaido.com>

HP: <http://sacrach.jp>